

〔追悼にかえて〕

# 安藤文雄先生の略歴と主な著作物

末次啓子

令和三年九月三日、公文書館の第三代館長であった安藤文雄先生が、八一歳でご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

先生は、鳥取西高等学校の教諭を経て、平成二年に県立図書館に異動され、平成五年から公文書館に赴任。館長として公文書館の充実に努められました。在職中の平成八年には、図書館長であった浜崎洋三先生（公文書館第二代館長）の逝去に伴い図書館長を併任され、その後、図書館長専任となり平成一二年に定年を迎えられました。退職後は、再び公文書館に戻られ、非常勤の専門研究員として七〇歳までご勤務いただきました。

また、平成八年から四半世紀にわたって鳥取市史編さん委員を務められたほか、『鳥取県中南米移住史』の編集委

員長としてもご尽力されました。

個人的には、高校時代の恩師として、また鳥取市史編さん室の職員だった折には、編さん委員のお立場からご指導を賜りました。公文書館では直接的な接点はありませんでしたが、同時期に在籍された職員の方々から、先生の多くの業績や逸話を伺うことができ、優しく穏やかなお人柄を思い起こすこととなりました。

ご家族から伺った先生の経歴と、鳥取西高等学校在職以後の主な著作物をご紹介して、先生のご遺徳を偲びたいと思います。

【略 歴】

【主な著作物】

昭和一五年 一月 鳥取市湯所町に安藤輝夫、智子の二男として誕生

昭和一九四年 四月 小さき花園幼稚園入園

昭和二二年 四月 鳥取師範学校附属国民学校入学。その後、多里小学校、岩井小学校に転校する。

昭和二七年 三月 宮ノ下小学校卒業

昭和二七年 四月 邑法第一中学校入学

昭和三〇年 四月 鳥取県立鳥取東高等学校入学

昭和三四年 四月 京都大学文学部入学

昭和三八年 四月 京都府立久美浜高等学校教諭（二年間）

昭和四〇年 四月 鳥取県立鳥取西高等学校教諭（二五年間）

平成二二年 四月 鳥取県立図書館勤務

平成一九九〇年 四月 鳥取県立公文書館長（平成一二年六月まで）

平成 八年 一月 鳥取市史編さん委員（約二五年間）

平成 八年 二月 鳥取県立図書館長（当初は公文書館長併任）

平成一〇年 八月 鳥取県中南米移住史編集委員会委員長

平成二〇年 三月 鳥取県立図書館長退職

平成二二年 四月 鳥取県立公文書館専門研究員

平成二三年 三月 退職

令和 三年九月三日 逝去（行年八一歳）

「さすらいの現代国語」『鳥城』第二号 一九六九年

「第三さすらいの現代国語」『鳥城』第三号 一九七〇年

「さすらいのない現代国語」『鳥城』第四号 一九七二年

「一冊の問題集から」『鳥城』第六号 一九七三年

「鳥城新詠」『鳥城』第一〇号 一九七七年

「二つの尚徳館記」『鳥城』第二三号 一九八〇年

「尚徳館碑史その二―創設期の人々―」『鳥城』第二四号 一九八一年

「尚徳館碑史その三―学館奉行列伝―」『鳥城』第二五号 一九八二年

「尚徳館碑史その四―教授列伝上―」『鳥城』第一六号 一九八三年

「因伯杏林碑誌集釈」 一九八三年

「尚徳館碑史その五―教授列伝下―」『鳥城』第一七号 一九八四年

「尚徳館碑史その六」『鳥城』第一八号 一九八五年

「新修鳥取市史」第三卷資料篇 一九八五年

「尚徳館碑史」『鳥城』第二〇号 一九八七年

「新修鳥取市史」第二卷近世篇 一九八八年

「尚徳館碑史」 一九九一年 ※1

「日本歴史地名大系 第三三卷（鳥取県の地名）」 一九九二年

「池田家墓地」『鳥取文芸』第一七号 一九九五年

「鳥取地域史研究」創刊にあたって」

「鳥取地域史研究」第一号 一九九九年

(11011)



平成8年春、鳥取士族の福島県移住調査のひとつコマ  
(於：郡山市にある開成館管理事務所)

『鳥取地域史研究』第二号発行にあたって』

『鳥取地域史研究』第二号 二〇〇〇年

『四千寺』『季刊 禅と念仏』第六号 二〇〇〇年

『市町村合併と公文書保存』

『鳥取県立公文書館研究紀要』創刊号 二〇〇五年

『目録作りの楽しみ―近藤家文書を中心に―』

『鳥取県立公文書館研究紀要』第二号 二〇〇六年

『戦争と公文書―大山村役場文書を中心に―』

『鳥取県立公文書館研究紀要』第三号 二〇〇七年

『記念碑は企む―鉄道・公園・戦争―』

『鳥取県立公文書館研究紀要』第四号 二〇〇八年

『碑文は端折る―電気・水道の誕生前後―』

『鳥取県立公文書館研究紀要』第五号 二〇〇九年

『石碑は承継ぐ―徳は孤ならず、必ず隣あり―』

『鳥取県立公文書館研究紀要』第六号 二〇一〇年

『因伯碑文講読』第一巻～第四巻・補遺篇―五巻

一九八〇～一九八一年

『碑文集成』第一冊～第八冊 一九八七年

『因伯漢文史料集成』第一巻～第八巻 一九八二～一九八三年

※2

※1 『鳥城』第一〇号から二〇号の掲載分を複製・合冊したものの。

※2 手稿本。訳注・目次集成なども含め、鳥取県立図書館所蔵。